



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

節分と立春

旭町小学校長 道山 正史

2月3日は節分。読んで字のごとく「季節を分ける」日です。ですから、2月4日は「立春」。もう暦の上では春です。「立春」は、太陰暦を使っていた頃に、季節の移り変わりを知るために使っていた「二十四節気」の一つで、本来は今で言う「立春の日」から始まる約15日間の期間を言うのだそうです。なので、2019年の立春は2月4日から2月18日までということになります。また「立春」は二十四節気が始まる節気なので1年の始まりとされていました。ということは、2月3日は1年の最後の日、つまり今で言う「大晦日」に当たる日とされていました。そこで、昔、豆には鬼を退治する効果があると言われていたので、1年の最後の日に悪いことをする鬼を退治して新しい年を迎え、1年間病気をしたり、悪いことが起きたりしないようにという願いを込めて、節分の日に豆をまいたということなのだそうです。

さて、節分の日に、豆をまいて鬼を退治することの他に、最近では「恵方巻き」を食べるようにもなりました。「恵方巻き」はその年によいと言われる方向、すなわち「恵方」を向いて、太巻きを一本丸ごと食べ、願い事をするというものです。しかし、私が子供の頃、というか、つい最近まで、こういう習慣はありませんでした。よくよく調べてみると、1989年に広島県のあるお店で太巻きを「丸かぶり寿司 恵方巻き」と名付けて売り出し、1998年にそれを全国で売り出すようになって一気に広まったということのようです。しかし今、「恵方巻き」を作りすぎて、残念ながら大量に廃棄してしまうということがあるようだと言われていると新聞に書いてありました。言うまでも無く、食べ物を大切に、感謝して食べる、という習慣はとても大切な習慣です。実は、1月24日から30日まで、全国学校給食週間でした。今週の全校朝会でもお話したのですが、これを機会に、子供たちに望ましい食習慣が形成されていくよう、学校、家庭、地域で、学校給食や食事、食べ物の意義や役割について理解と関心を高めていけたらと思います。